

学校概要と沿革

1. 学校名 横浜市立みたけ台中学校
2. 所在地 横浜市青葉区みたけ台30番地 〒227-0047 TEL 045(971)6431・6432
(交通機関東急田園都市線「藤が丘」駅下車徒歩25分 FAX 045(972)9812
または、「藤が丘」下車後、東急コーチ・バス「青葉台」行乗車、「みたけ台中学校前」下車徒歩2分)
3. 学校長 羽田敏孝(16代令和5年4月1日～ 横浜市立みたけ台小学校より着任)
副校長 金田貴子(17代令和3年4月1日～ 横浜市立鉄小学校より着任)
4. 歴代の校長
小関昭三(初代昭和53年4月1日～昭和55年8月31日 新井中学校長として転任)
野本千尋(2代昭和55年9月1日～昭和57年8月31日 本校学校長を最後に退任)
村田健吉(3代昭和57年9月1日～昭和58年8月31日 新羽中学校長として転任)
金原保則(4代昭和58年9月1日～平成元年3月31日 本校学校長を最後に退任)
柏木将一(5代平成元年4月1日～平成3年3月31日 原中学校長として転任)
眞船 明(6代平成3年4月1日～平成6年3月31日 本校学校長を最後に退任)
鈴木恭史(7代平成6年4月1日～平成7年3月31日 東高等学校長として転任)
鬼塚優司(8代平成7年4月1日～平成10年3月31日 共進中学校長として転任)
宮本邦夫(9代平成10年4月1日～平成15年3月31日 戸塚中学校長として転任)
菅野 勝(10代平成16年4月1日～平成20年3月31日 本校学校長を最後に退任)
栗原史生(11代平成21年4月1日～平成24年3月31日 汲沢中学校長として転任)
庄古忠彦(12代平成24年4月1日～平成28年3月31日 本校学校長を最後に退任)
野中 隆(13代平成28年4月1日～平成29年3月31日 本校学校長を最後に退任)
濱本貴康(14代平成29年4月1日～令和2年3月31日 本校学校長を最後に退任)
小林 誠(15代令和2年4月1日～令和5年3月31日 本校学校長を最後に退任)
5. 歴代の副校長
石渡光俊(初代昭和53年4月1日～昭和56年8月31日 西中学校に転任)
千喜良重忠(2代昭和56年9月1日～昭和62年3月31日 本校を最後に退任)
渡邊 淳(3代昭和62年4月1日～平成2年3月31日 奈良中学校長として転任)
伊藤 忍(4代平成2年4月1日～平成4年3月31日 本校を最後に退任)
原 泰弘(5代平成4年4月1日～平成5年3月31日 横浜市教育委員会指導主事に転任)
福田俊夫(6代平成5年4月1日～平成8年3月31日 左近山中学校に転任)
武藤勝英(7代平成8年4月1日～平成11年3月31日 都岡中学校に転任)
下井 正(8代平成11年4月1日～平成13年3月31日 都岡中学校に転任)
田中明子(9代平成13年4月1日～平成14年3月31日 若葉台西中学校長に転任)
藤井知生(10代平成14年4月1日～平成16年3月31日 旭中学校に転任)
池田洋一(11代平成16年4月1日～平成18年3月31日 鴨居中学校に転任)
小梨 茂(12代平成18年4月1日～平成20年3月31日 岩井原中学校長として転任)
二瓶忠邦(13代平成20年4月1日～平成22年3月31日 田奈中学校副校長として転任)
鈴木義久(14代平成22年4月1日～平成26年3月31日 本校を最後に退職)
鈴木 彰(15代平成26年4月1日～平成30年3月31日 元石川小学校長として転任)
岸川雅郎(16代平成30年4月1日～令和3年3月31日 中山中学校副校長として転任)
金田貴子(17代令和3年4月1日～)
6. 校 地 16,242㎡
7. 校 舎 鉄筋3階建 床面積 6,003㎡
 - ・普通教室 16
 - ・特別教室 12 (図書室、調理室、理科室、金工木工室、音楽室、被服室、会議室
コンピューター室、美術室、個別支援教室、相談室、資料室、保健相談室)
 - ・体育館 738㎡ ・屋外プール(25m×12m) ・防災備蓄庫

8. その他	昭和54年3月30日	鉄筋プレハブ教室81㎡（昭和55年4月3日撤去）
	昭和55年2月29日	鉄筋コンクリート教室414㎡完成
	昭和59年4月1日	鉄筋プレハブ教室243㎡完成（昭和60年3月31日撤去）
	昭和60年10月22日	視聴覚室（128㎡）、相談室（64㎡）、資料室（64㎡）の改築
	昭和62年10月1日	第2理科室（128㎡）の改築
	昭和62年11月7日	藤棚設置
	平成6年3月31日	コンピューター室（84㎡）の設置
	平成11年3月31日	保健相談室（64㎡）の設置
	平成13年12月1日	放送室（64㎡）の改築
	平成13年12月11日	事務室（64㎡）の改築
	平成28年4月1日	個別支援教室（128㎡）の設置
	平成31年4月1日	学校運営協議会設置
	令和2年3月	新型コロナウイルス感染症流行による全国的休校措置
	令和2年6月	学校再開 ただしこの後もたびたび教育活動は制限される
	令和3年4月	横浜GIGAスクール構想により、生徒1人につきPC1台ずつ配付。
	令和3年8月	再び感染拡大のため横浜市の学校が休校。PCを利用したオンライン授業実施。
	令和3年9月	学校再開
	令和4年12月	グラウンドブロック塀撤去、フェンス設置

9. 学区の概況

本校の学区は、鶴見川の上流の谷本川流域と恩田川にはさまれた地域で、東は国道246号線、東急田園都市線、東名高速道路が通り、北西には丹沢山塊、富士山を遠望できる静かな環境にある。約40年前、田園都市線開通、大手不動産会社による周辺地域の宅地造成が進められ、住宅分譲などにより、一大住宅地になっている。また、谷本川流域には、田畑も多く、古くから農業に従事している家もあり、近郊農業として実績を持つ所でもある。佐藤春夫著『田園の憂鬱』のモデルにもなった地域でもある。

10. 学区

大場町	1番地～86番地、97番地～102番地、103番地の2、103番地の4、103番地の5、104番地～106番地、155番地の2～155番地の30、156番地～209番地、214番地の5～214番地の8、216番地の1～216番地の20、216番地の22～216番地の終り、231番地の31、231番地の33～231番地の37、231番地の62、235番地の1、235番地の2、240番地、241番地、242番地の14～242番地の20、243番地～249番地、278番地～284番地、350番地の3、350番地の4
鉄町	1番地～2,201番地、2,205番地から終り
上谷本町	97番地～114番地、713番地～731番地
桜台	1番地～27番地
たちばな台一丁目	
みたけ台	

[沿革]

1. 創立 昭和53年4月1日
2. 開校記念日 6月1日（校章が決定されたこと、校舎の工事・検査が完了したことによる）
3. 本校設置の際の概要

東急電鉄と地元が協力し、田園都市計画が進められ、昭和42年、田園都市線が開通することにより人口増加が始まった。昭

和48年、横浜市立青葉台中学校が設立されたが、土地区画整理事業が進むにつれて住宅地が増加、人口が急増したため生徒を収容しきれなくなった。そこで、上谷本方面校が設立されることになり、昭和52年5月31日、横浜市教育委員会による地元説明会が開かれ、校舎は第一建設株式会社、体育館は染谷工務店が工事を行うこととなった。

このような状況から、青葉台中学校PTA、自治会、地元関係者67名で、設立準備委員会設置され、委員長に小川義治氏が就任、生徒収容に関わる通学区域、通学路などが協議され、対策が講じられた。11月29日以降、同会は開校準備委員会と改称された。

昭和53年3月31日、運動場の一部整地事業を除き、A、B、C棟校舎、体育館の工事が完了し、4月4日、開校式の運びとなった。